



近局長

Handwritten signature/initials

レバノンにおける米国人人質解放問題
60.8.1
中近東第1課
1. 従来の経緯
(1) 本年1月米側より在京米大クラーク公使を通じて米
近ア局参事官に対し本件人質解放のためイランに御
手かけて欲しい旨要請越した。こゝを返り、同参事
官よりガウアヒ在京イラン大使に対し、イラン政府が
何らかの形で人質解放のため影響力を行使しう
る余地があるのではあるが好ましい旨述べたところ、
先方は本国に取次ぐ旨述べた。
(2) 本年4月三宅近ア局長がイランを訪問した際、
同国政府に対し本件につき協力を求めた。
(3) 本年6月ラフサンジャニ議長訪日の先遣隊として

来日したアルドヒソ イラン外務次官に対し、近ア局長

よりも強く申し入れ済。また、7月~~17日~~ ^(野村大使)にも在イラン米領事

~~アハニ政府と密に~~
~~外務次官に申し入れた。~~

(4) 本年7月^(17日) 安倍大臣が シリアを訪問した際、シリア

外相に対し、本件人質解放に向けてのシリアの努力を

働きかけたところ、先方は、アサド大統領の指示もあり

り、最大限の努力を行、ている旨回答。に9日は在米大

(シリア政府とシリア
を同じシリア領事館にも通報済み。)

2. 今回のレーガン大統領よりの要請とその対応振り

(1) 28日、「レ」大統領より中曾根総理に電話連絡あり。

7人の米人人質解放に万々協力を得たい旨要請。

これに対し、総理は出来る限りの努力を行う旨返答。

(その後 マックファーレン補佐官より松永大使に対しても

同様の要請あり。)

(2) 29日 同大使に対し、「我が国は今後とも本件に万々出

来る限りの努力を行、てゆく所存であり、安倍大臣よりイラン

シリア両外相に対し緊急に特別メッセージを發出する予定である旨米側に通報すべし訓令済。

(2) 本件に関する我が方の対応振り次の通り。

(イ) シリア両外相に対し安倍大臣より特別メッセージを發出済。

(ロ) 特使派遣。

総理